

総

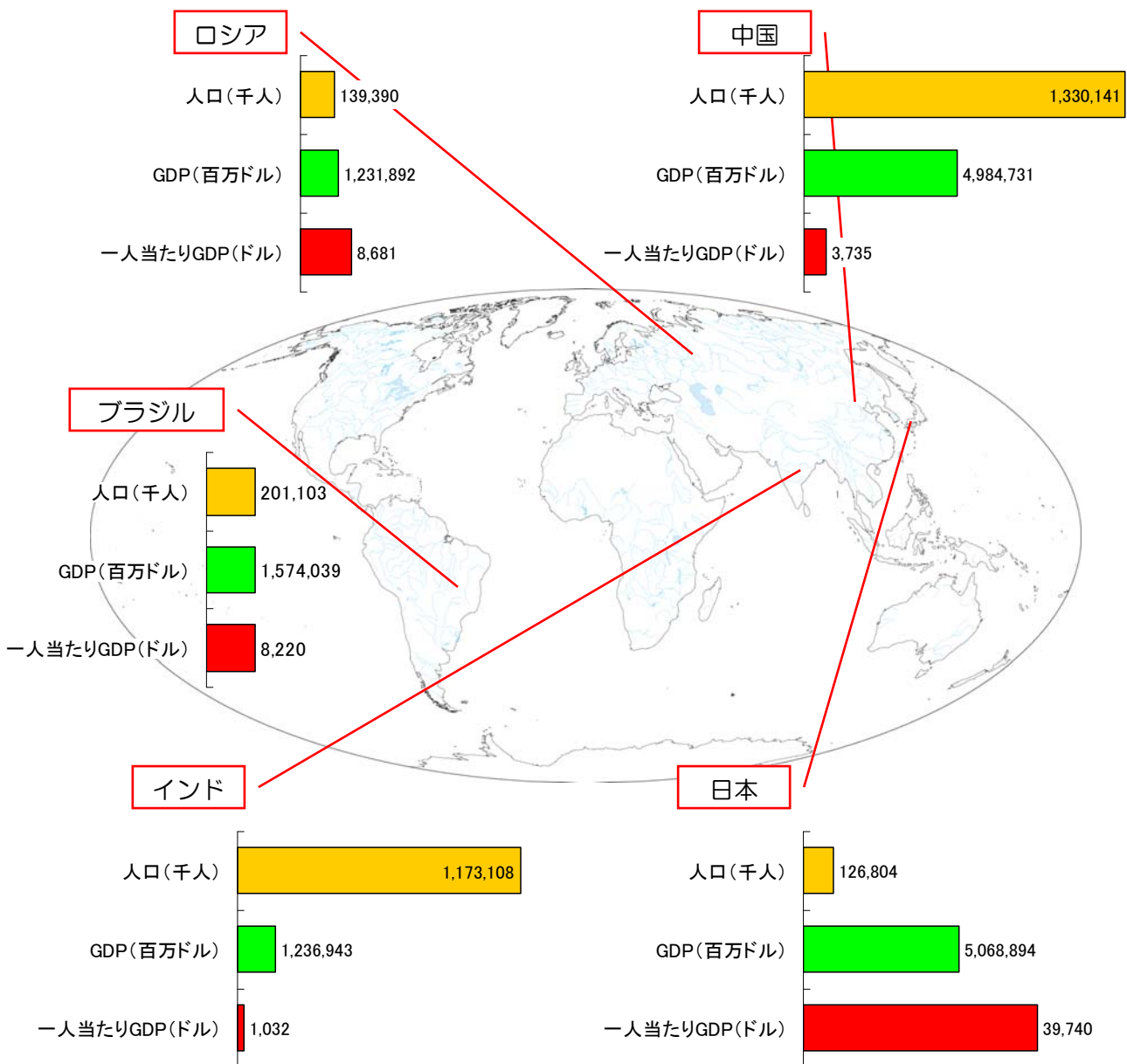
論

# 序章 世界の中のブラジル

## I. 世界の中のブラジル

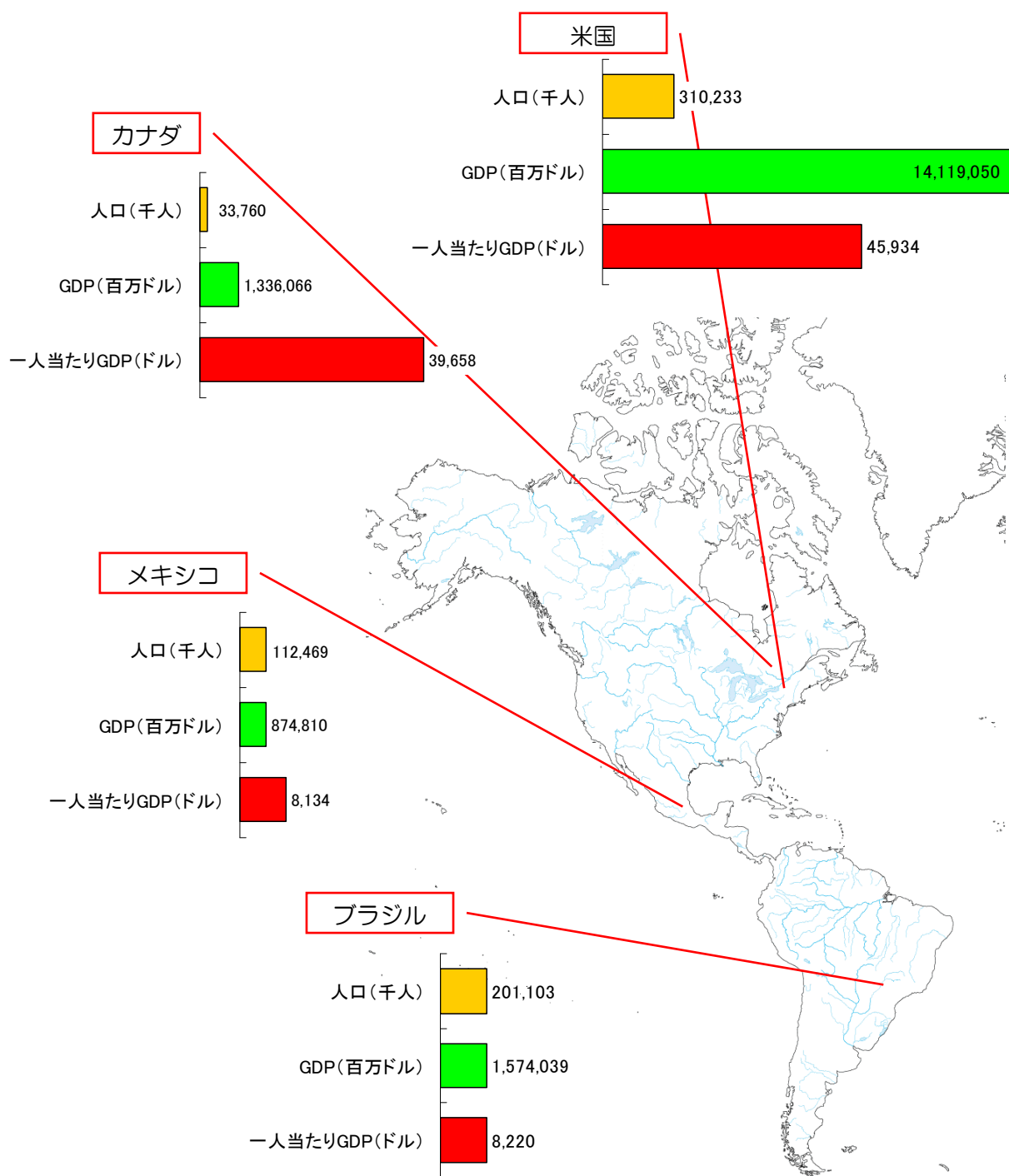
### I-1. 主要指標の各国比較地図<sup>1</sup>

図表 0-1 BRICS 諸国の中のブラジル

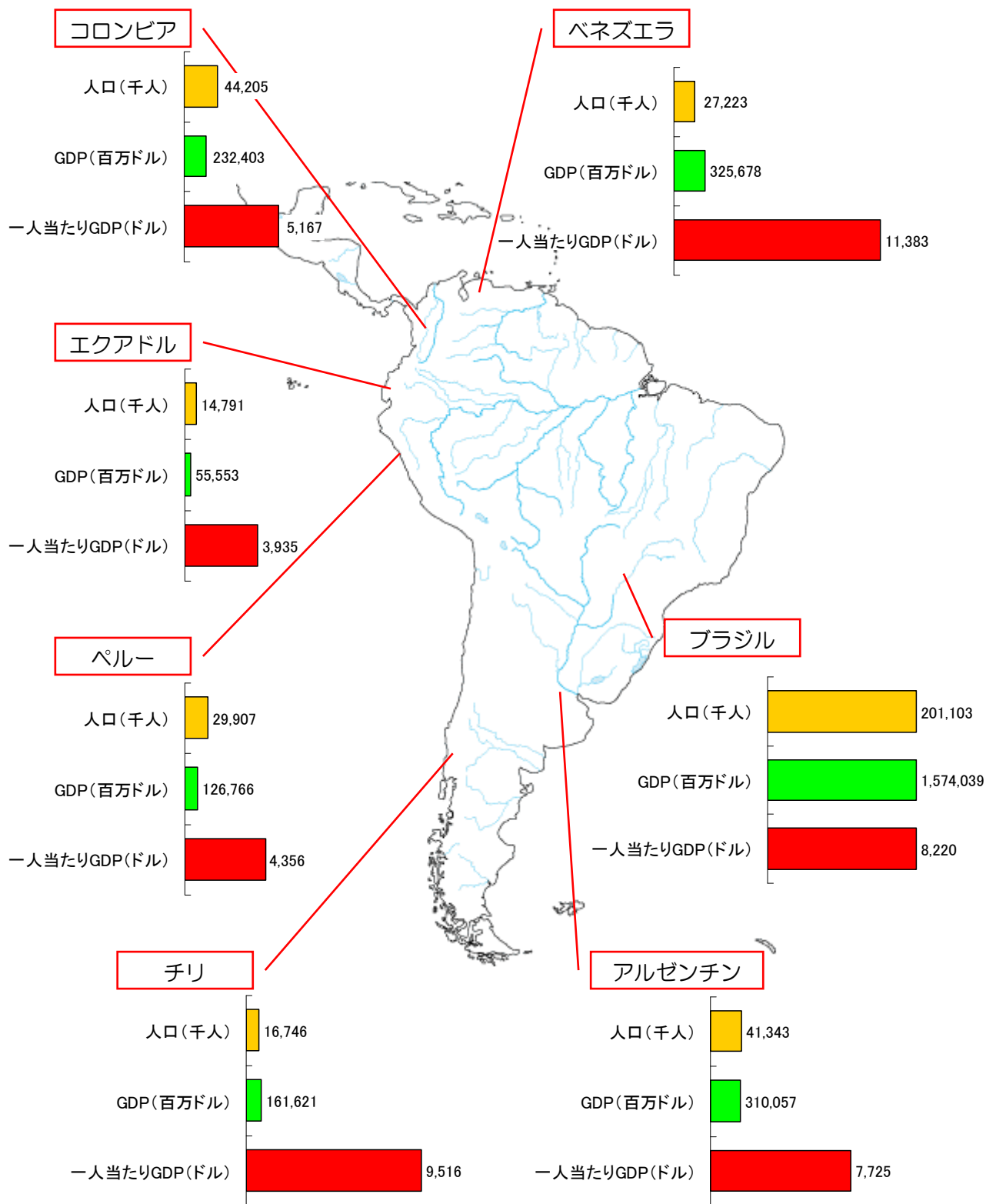


<sup>1</sup> 本節の図では、人口は CIA 「World Factbook」、GDP および一人当たり GDP は IMF 「World Economic Outlook」 2010 年 10 月版 を用いた。また、地図は以下のサイトより借用している。 <http://www.abysse.co.jp/world/index.html>

図表 0-2 米州大陸の中のブラジル



図表 0-3 南米大陸の中のブラジル



約 2 億人の人口を擁するブラジルは、世界で 5 番目、南半球では最大の人口大国である。また、IMF が毎年 2 回発行している「World Economic Outlook」2010 年 10 月版によると、ブラジルの GDP は 2009 年時点で 3 兆 1430 億レアル（約 1.6 兆米ドル）であり、ルーラ前大統領が就任した 2003 年の約 1.7 兆レアルからほぼ倍増、カルドゾ元大統領が就任した 1995 年の約 7000 億レアルからは 4 倍以上の急成長を遂げてきた。

近年ブラジルはロシア、インド、中国と並んで BRICs 諸国の一翼として数えられることが多い。これら 4 カ国は、比較的経済が成熟しているブラジル、ロシア 2 カ国と、人口のボリュームが大きく経済成長が著しいインド、中国 2 カ国とに概ね色分けされる。

図表 0-1 に示したとおり、BRICs 諸国の人口は約 30 億人に達し、これは世界の総人口の 4 割程度に当たる。上述のとおりブラジルの人口は約 2 億人であり、BRICs 諸国の中では 7% を占めるのみである。

しかし経済規模の面では BRICs 4 カ国の中で一定の割合を占めている。名目 GDP の額はロシアやインドよりも大きい。国家間の比較のために PPP<sup>2</sup>ベースの GDP に換算すると、ブラジルは 4 カ国のうち約 12% を占め、人口のシェアと比較して高い水準にある。

この結果として、ブラジルの一人当たり GDP の水準もインドや中国と比較すると高水準だ。ブラジルは BRICs 諸国の中では発展した経済を有しているといえる。

図表 0-2 では、同様に南北アメリカ大陸内でのブラジルの位置づけを示している。大国米国には遠く及ばないものの、ブラジルの存在感も決して小さくはない。人口は米国に次いで 2 位であり、また GDP もすでにカナダを追い抜いて南北アメリカ大陸内の 2 位につけている。早くから NIEs 諸国の一角として位置づけられてきたメキシコと比べても、人口、GDP とともにブラジルの方が大きな規模を有している。一人当たり GDP で比較しても、物価が相対的に高いブラジルのほうが実質的な豊かさは劣るとはいえ、それでも金額としてはメキシコと比肩する水準に至っているといえる。

南米大陸にフォーカスすると、図表 0-3 に示したとおり、ブラジルは人口、GDP とともに最も大きな国であるといえる。ブラジルに次いで人口の多いコロンビアやアルゼンチンと比べても圧倒的に多くの人口を擁し、PPP でみた GDP も南米大陸のほぼ半分を占めている。一方、一人当たり GDP の水準ではいくつかの国より低位ではあるが、石油資源に過度に依存したベネズエラの状態などを考慮に入れば、ブラジルが南米で最も発展した経済を有する国のひとつであることに揺るぎはない。

---

<sup>2</sup> Purchasing Power Parity（購買力平価）の略。各国の物価差を考慮して GDP を計測すること。いわば財・サービスの量として GDP を捉えることを意味し、これにより各国間の GDP を足し合わせる操作が意味を持つことになる。本節の図表では通貨単位で換算した金額で GDP を表示している。

## ブラジル及び中南米地域への投資意向<sup>3</sup>

ここでは、国際協力銀行が毎年実施している「わが国製造業の海外事業展開に関する調査報告」のうち、2010年度に実施されたアンケート結果（第22回）の結果を紹介する。これによると、リーマンショック後の企業収益は回復傾向にあるものの、これは主に経費削減の進展によるところが大きいという。こうした収益環境を背景として、海外事業を強化・拡大するとした企業は、前年調査から17%ポイント増加して83%に及び、海外事業への意欲が積極化していることを伺わせる。

こうした中、日本企業はブラジルおよび中南米地域の投資環境をどのように捉えているのだろうか。他の投資対象国・地域とも適宜比較しながら分析する。

まずは中南米地域への投資の現状をみると、同アンケートに回答した企業約600社が有する中南米地域の生産拠点、販売拠点は、図表0-4に示したとおり、それぞれ200以上になる。また、研究・開発拠点を有する企業も少数ながらみられた。

図表 0-4 中南米における海外現地法人の機能別・地域別内訳

(回答社数：599社)

	中南米	ロシア	北米 <sup>4</sup>	ASEAN <sup>5</sup>	中国	中・東欧 <sup>6</sup>
生産拠点	237	16	717	1,322	1,860	130
販売拠点	214	47	599	792	732	100
研究・開発拠点	5	1	87	42	61	2
その他	76	9	271	198	138	14
合計	532	73	1,674	2,354	2,791	246

また、中南米における売上高と収益の満足度の評価<sup>7</sup>を図表0-5に示した。アジア新興国には及ばないものの、インド、ロシアや欧米各国と比べると高い水準を示している。

<sup>3</sup> 本節の内容は、国際協力銀行国際経営企画部国際調査室「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告 - 2010年度 海外直接投資アンケート結果（第22回） -」（2010年12月）に基づいて作成した。結果報告の本文は下記ウェブサイトを参照されたい。

<http://www.jbic.go.jp/ja/about/press/2010/1203-01/houkoku.pdf>

<sup>4</sup> 米国、カナダ

<sup>5</sup> シンガポール、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン

<sup>6</sup> ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキア、ブルガリア、ルーマニア、スロベニア、アルバニア、クロアチア、セルビア、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア旧ユーゴスラビア

<sup>7</sup> 「昨年度の売上高、収益は、当初目標と比べると、下記のいずれに該当しますか」という設問に対し、「1. 不十分」「2. やや不十分」「3. どちらともいえない」「4. やや満足」「5. 満足」の選択肢を示して、回答を得た番号の平均値を評価ポイントとした。

なお、前年調査（2008 年度実績）では中南米はいずれも 1 位であった。これは、今年度 1～3 位に躍り出た国・地域の評価が高まったためであり、中南米への評価水準が低減した訳ではない。

図表 0-5 売上高・収益の満足度評価（主要国・地域別）

	売上高 満足度評価				収益 満足度評価			
	2009 年度実績		2008 年度実績		2009 年度実績		2008 年度実績	
1	中国	2.73	中南米	2.51	ベトナム	2.76	中南米	2.55
2	ASEAN5	2.70	中国	2.46	ASEAN5	2.70	ASEAN5	2.40
3	ベトナム	2.65	ASEAN5	2.43	中国	2.70	中国	2.37
4	中南米	2.55	インド	2.43	中南米	2.55	ベトナム	2.36
5	NIEs3 <sup>8</sup>	2.54	ベトナム	2.35	NIEs3	2.51	ロシア	2.26
6	インド	2.53	NIEs3	2.30	インド	2.43	インド	2.24
7	中・東欧	2.37	ロシア	2.23	中・東欧	2.35	NIEs3	2.22
8	北米	2.24	EU15	2.22	北米	2.21	EU15	2.15
9	EU15	2.19	中・東欧	2.10	EU15	2.20	中・東欧	2.09
10	ロシア	2.12	北米	2.03	ロシア	2.15	北米	1.97

このうち収益の満足の理由として最も多く挙げられたのは、共通して「当該国・地域内での販売活動が順調」であった。2 位以下に挙げられた要因は国・地域別にさまざまであり、たとえば ASEAN5 では、「輸出順調」と「コスト削減が順調」が上記に続く収益満足理由となっている。中国は、「生産設備の稼働本格化」「コスト削減が順調」への回答が前年度調査と比べて高まった。また北米と EU15 は、「当該国・地域内での販売活動が順調」の割合が昨年度調査から低下する一方、「コスト削減が順調」の割合が上昇している。

一方収益の不満足の理由として、中国やインドでは「販売先からの値引要求」「販売先確保が困難（他社との厳しい競争）」など、厳しい競争を反映する回答が多く見られた。北米と EU15 については、「景気変動による市場規模縮小」が最も多く挙げられた一方、円高に伴う競争力低下を指摘する回答が昨年度調査よりも増加した。

次に、海外での事業展開の有望性を図表 0-6 に示した。同アンケートにおいて、中期的（今後 3 年程度）有望事業展開先国・地域として 5 カ国・地域までの複数回答を求めたところ、当該設問への回答社（516 社）のうち、24.6%に当たる 127 社がブラジルを掲げた。これはアジア新興国に次ぐランクであり、前年（2009 年）との比較においても順位、得票

<sup>8</sup> 韓国、台湾、香港

率ともに伸ばしている。

また、長期的（今後 10 年程度）の見通しにおいては、ブラジルはインド、中国に次ぐ有望事業展開先であると目されている。

図表 0-6 有望と考える事業展開先国・地域

中期的有望事業展開先国・地域					長期的有望事業展開先国・地域		
順位		国・地域名	2010	2009	順位	国・地域名	2010
2010	2009		得票率 (516 社中)	得票率 (480 社中)			2010
1	1	中国	77.3%	73.5%	1	インド	74.9%
2	2	インド	60.5%	57.9%	2	中国	71.7%
3	3	ベトナム	32.2%	31.0%	3	ブラジル	34.5%
4	4	タイ	26.2%	22.9%	4	ベトナム	30.6%
5	6	ブラジル	24.6%	19.8%	5	ロシア	24.7%
6	8	インドネシア	20.7%	10.8%	6	インドネシア	21.2%
7	5	ロシア	14.5%	21.5%	7	タイ	19.2%
8	7	米国	11.2%	13.5%	8	米国	8.7%
9	9	韓国	5.8%	6.5%	9	マレーシア	4.6%
10	10	マレーシア	5.6%	5.4%	10	台湾	4.1%
10	11	台湾	5.6%	4.4%			

ブラジルが有望である理由とブラジルの課題は図表 0-7 のとおりである。ブラジルマーケットの成長性や現状規模といった国内マーケットへの要因が有望理由の上位にランクインした。この傾向は、中期的有望先国のトップに位置する中国と同様である。同じく 2 位のインドにおいても、現地マーケットの成長性を挙げる意見が最も多かったが、それに次いで安価な労働力を挙げる意見が多くみられた。また、同じく 3 位、4 位のベトナムとタイについても、現地マーケットの成長性が最も回答を集めているものの、ベトナムについては安価な労働力を挙げた回答がこれと同数で並んだ。タイは組立メーカーへの供給拠点として、という理由が 32%の回答を集めて 3 位に入っていることが特徴的である。

一方、ブラジルの課題として、治安・社会情勢や投資先国の情報不足について企業の不安が高いことが看取される。労働コストの上昇が課題の第一として挙げられた中国、同じくインフラが未整備とされたインドやベトナムなどにおいては、ブラジルと同様の課題が上位にランクインしておらず、アジア諸国への進出における課題意識と対照的である。



図表 0-7 ブラジルの有望理由と課題

ブラジルの有望理由		2010 得票率 (126 社中)
1	現地マーケットの今後の成長性	86.5%
2	現地マーケットの現状規模	25.4%
3	安価な労働力	19.8%
4	組み立てメーカーへの供給拠点として	17.5%
5	第三国輸出拠点として	10.3%
ブラジルの課題		2010 得票率 (120 社中)
1	治安・社会情勢が不安	32.5%
2	他社との厳しい競争	30.0%
3	投資先国の情報不足	26.7%
4	法制の運用が不透明	22.5%
5	徴税システムが複雑	21.7%

中期的有望先国としてブラジルを掲げた企業（127 社）のうち、具体的な事業計画があるとした企業は、図表 0-8 に示すとおり約 4 割にとどまっている。これは中国やマレーシアなど、実際の事業計画を伴っている企業の多い有望先国と比べると低い水準である。ブラジル市場への期待は実際の事業よりも評価が先行している状況と考えられる。

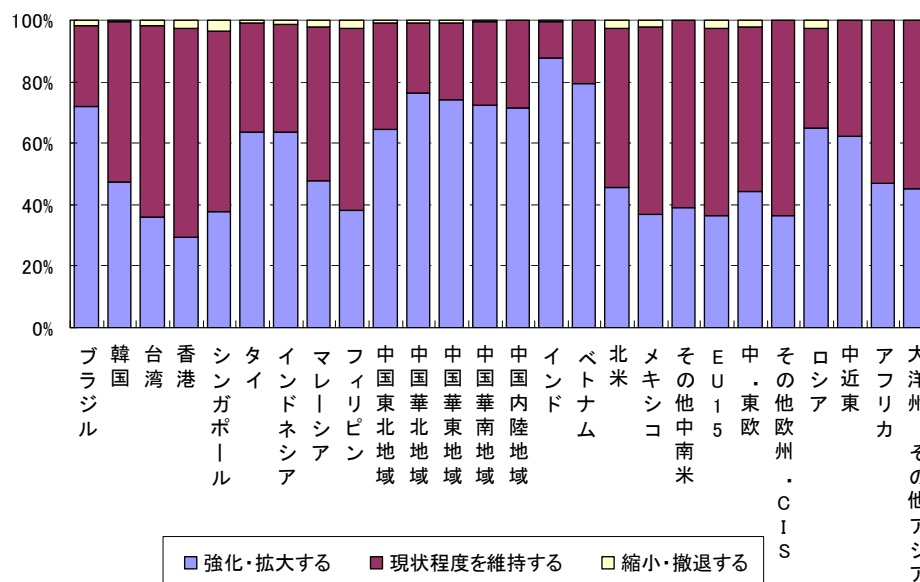
図表 0-8 有望国・地域における具体的な事業計画の有無（有望とされた上位 5 カ国）

具体的な 事業計画あり	国・地域名 (有望国として回答し た企業数)	具体的な 事業計画なし
275 (68.9%)	中国 (399 社)	115 (28.8%)
122 (39.1%)	インド (312 社)	182 (58.3%)
63 (37.9%)	ベトナム (166 社)	99 (59.6%)
64 (47.4%)	タイ (135 社)	68 (50.4%)
49 (38.6%)	ブラジル (127 社)	76 (49.8%)
45 (42.1%)	インドネシア (107 社)	60 (56.1%)

23 (30.7%)	ロシア (75 社)	48 (64.0%)
34 (58.6%)	米国 (58 社)	23 (39.7%)
11 (36.7%)	韓国 (30 社)	18 (60.0%)
20 (69.0%)	マレーシア (29 社)	9 (31.0%)
14 (48.3%)	台湾 (29 社)	14 (48.3%)

一方、国・地域別の中期的海外事業展開の見通しとして、ブラジルを強化・拡大するとした企業は、他の国・地域と比べて高い割合となっている。図表 0-9 のとおり、当該設問に解答した 161 社のうち、72%にあたる 116 社が事業を強化・拡大としている。この割合は中国各地域やインド、ベトナムについて高い水準である。

図表 0-9 中期的海外事業展開見通し (主要国・地域別)



## II. 世界経済におけるブラジルの位置づけ

ブラジルはいわゆる「BRICs」の一角を占める一方、南アメリカ大陸最大規模の経済を有している。以下、いくつかのマクロ指標について改めてブラジルの位置づけを示す。

### II-1. 人口、人口動態

ブラジルの人口は約 2 億人であり、これは世界で第 5 位の規模である。中国、インドと比較すると小さいものの、南アメリカ諸国の中では突出している。

図表 0-10 世界の人口ランキング

順位	国名	人口（千人）
1	中国	1,330,141
2	インド	1,173,108
3	アメリカ合衆国	310,233
4	インドネシア	242,968
5	ブラジル	201,103
6	パキスタン	184,405
7	バングラデシュ	156,118
8	ナイジェリア	152,217
9	ロシア	139,390
10	日本	126,804

（出所：CIA「The World Factbook」）

図表 0-11 ラテンアメリカ諸国の人口ランキング（1千万人以上）

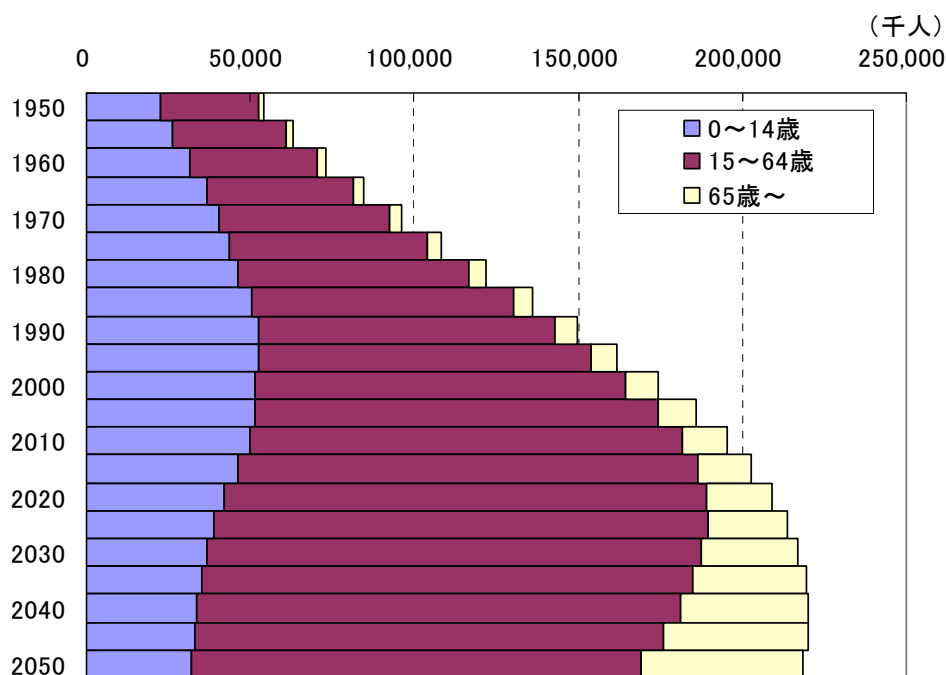
順位	国名	人口（千人）
5	ブラジル	201,103
29	コロンビア	44,205
32	アルゼンチン	41,343
39	ペルー	29,907
45	ベネズエラ	27,223
60	チリ	16,746
65	エクアドル	14,791
...		
11	メキシコ	112,469
73	キューバ	11,477
	ラテンアメリカ諸国計	588,649

（注）数字はCIAによる世界順位

（出所：CIA「The World Factbook」をもとに㈱日本総合研究所作成）

今後のブラジルの人口は、2040 年ごろにかけて 2.2 億人程度にまで増加すると予測されている。

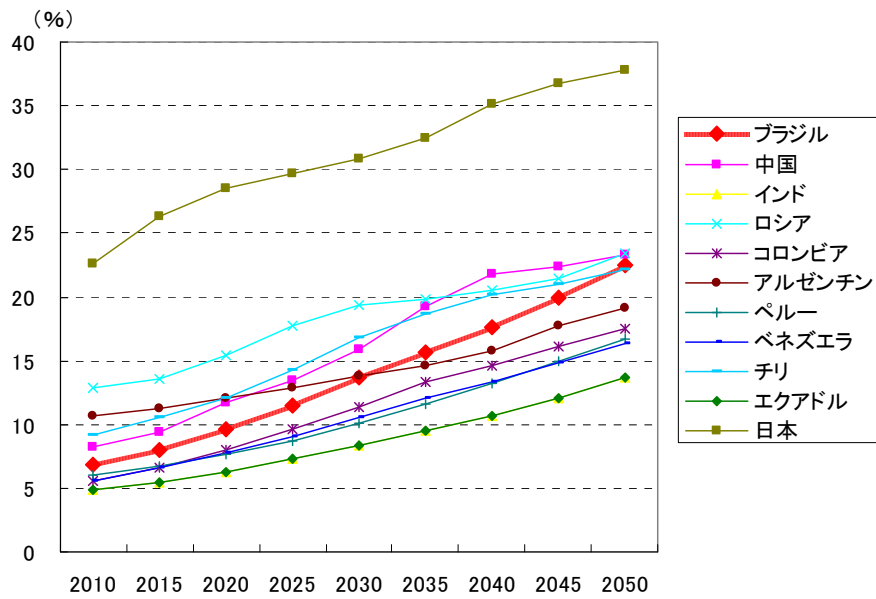
図表 0-12 ブラジルの年齢 3 階級別人口の推移



(出所 : World Population Prospects, the 2008 revision における中位推計)

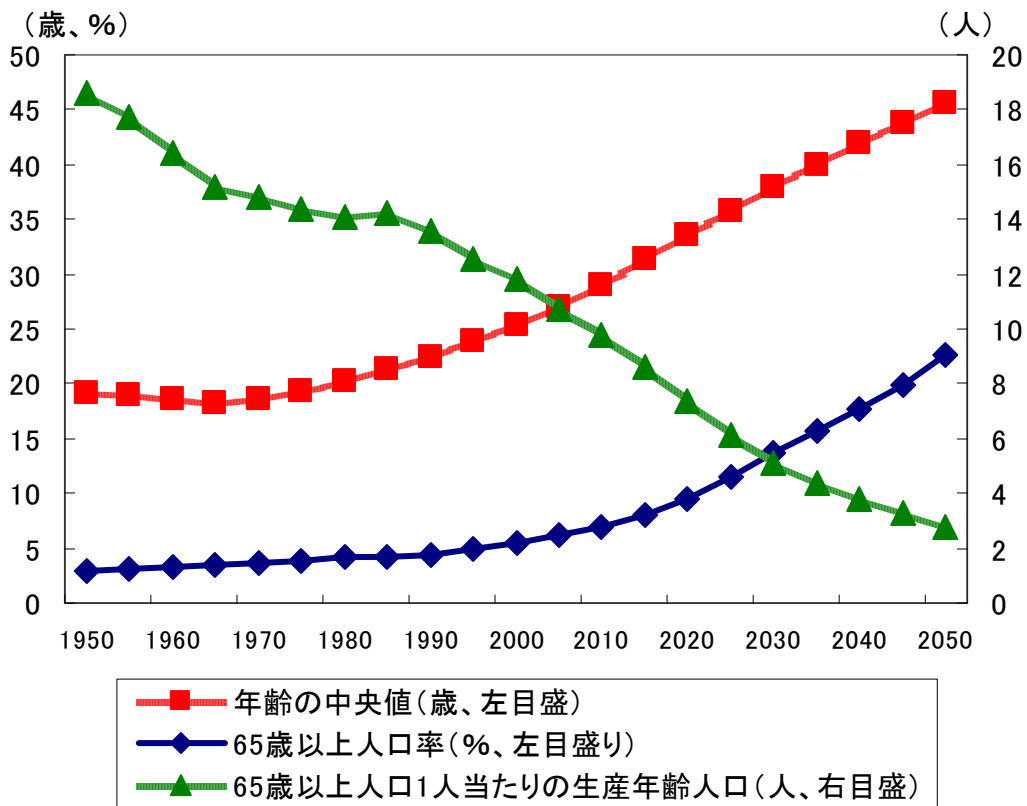
ただし人口の高齢化の足並みは早い。現在はロシアやアルゼンチンがブラジルより高い高齢化率を示しているが、これから 2050 年ごろにかけてブラジルの高齢化率は急速に高まり、ロシアや中国と同等の水準に達すると見込まれる。これに伴い 65 歳以上人口 1 人当たりの生産年齢人口 (15-64 歳人口) も急速に低下し、2050 年ごろには働く者 3 人不足で 1 人の高齢者を支える社会となる。

図表 0-13 各国の65歳以上人口の割合



(出所 : World Population Prospects, the 2008 revision)

図表 0-14 ブラジルの高齢化の見通し



(出所 : World Population Prospects, the 2008 revision)

## II-2. GDP

2009年時点ではブラジルのGDP（為替レート換算）は約1.6兆ドルで既に世界第8位の水準である。しかし早晩、欧州の主要経済国と比肩する規模になる。また、南アメリカ諸国の中では現在でもすでに突出した経済規模を誇っている。

図表 0-15 世界の GDP ランキング（為替レート換算）（2009年、2015年）

（十億ドル）

	2009年		2015年予測	
	国名	GDP	国名	GDP
1	米国	14,119	米国	18,029
2	日本	5,069	中国	9,982
3	中国	4,985	日本	6,517
4	ドイツ	3,339	ドイツ	3,728
5	フランス	2,656	フランス	2,945
6	イギリス	2,179	イギリス	2,885
7	イタリア	2,118	ブラジル	2,789
8	ブラジル	1,574	ロシア	2,499
9	スペイン	1,468	インド	2,412
10	カナダ	1,336	イタリア	2,289

（出所：IMF “World Economic Outlook” 2010年10月版）

図表 0-16 ラテンアメリカ諸国の GDP ランキング（2009年、数字は世界順位）

（十億ドル）

	国名	GDP
8	ブラジル	1,574
29	ベネズエラ	326
31	アルゼンチン	310
36	コロンビア	232
49	チリ	162
52	ペルー	127
66	エクアドル	56

...		
14	メキシコ	875
	ラテンアメリカ諸国計	3,965

(出所：IMF “World Economic Outlook” 2010 年 10 月版)

一人当たり GDP ではブラジルは現在世界 60 位程度の位置にあるものの、BRICs 諸国の中では中国、インドよりもかなり高水準にある。また他のラテンアメリカ諸国と比べても、ブラジルの水準は高いといえる。

図表 0-17 BRICs、ラテンアメリカ諸国の一人当たり GDP ランキング (2009 年、2015 年)

(ドル)

2009 年		2015 年予測	
国名	一人当たり GDP	国名	一人当たり GDP
ベネズエラ	11,383	ロシア	18,111
チリ	9,516	チリ	16,192
ロシア	8,681	ブラジル	13,982
ブラジル	8,220	メキシコ	11,813
メキシコ	8,134	アルゼンチン	9,687
アルゼンチン	7,725	ベネズエラ	8,889
コロンビア	5,167	コロンビア	8,113
ペルー	4,356	中国	7,258
エクアドル	3,935	ペルー	6,702
中国	3,735	エクアドル	5,054
インド	1,032	インド	1,856
(参考) 日本	39,740	(参考) 日本	51,663

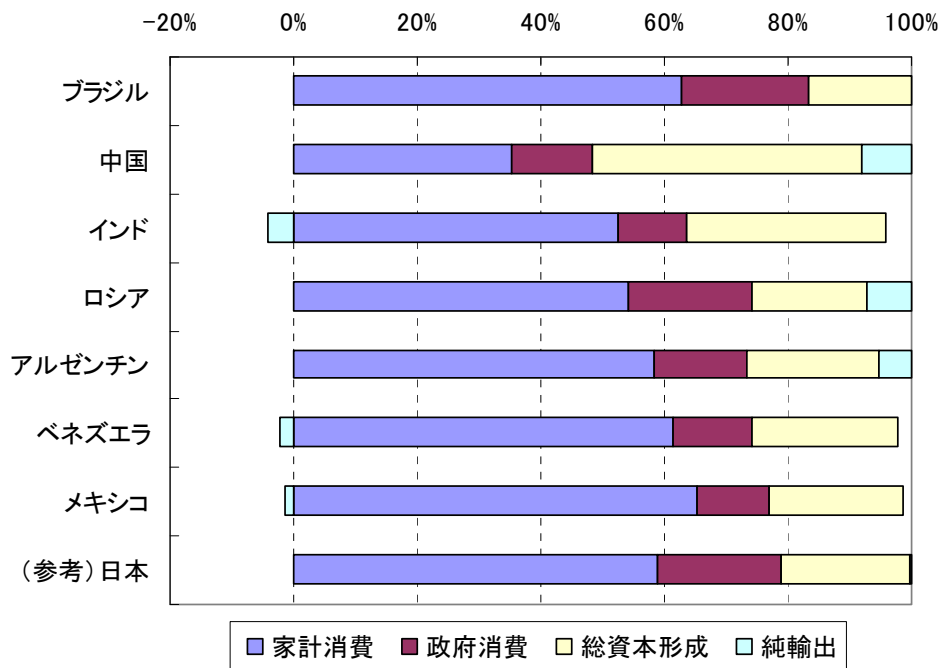
(出所：IMF “World Economic Outlook” 2010 年 10 月版)

### II-3. GDP の構成

ブラジルの市場構造の特質を捉えるため、GDP を構成要素に分解する。まずは需要側の構造を要素ごとに分解し、BRICs およびラテンアメリカ主要国と比較したものが下図である。

ブラジルは消費需要が大きく、かつ純輸出による総需要への貢献がほとんどみられないことから、内需の厚みのある、より先進国に近い需要構造をしていることが読み取れる。

図表 0-18 BRICs 諸国およびラテンアメリカ諸国の GDP 需要側分解 (2009 年)

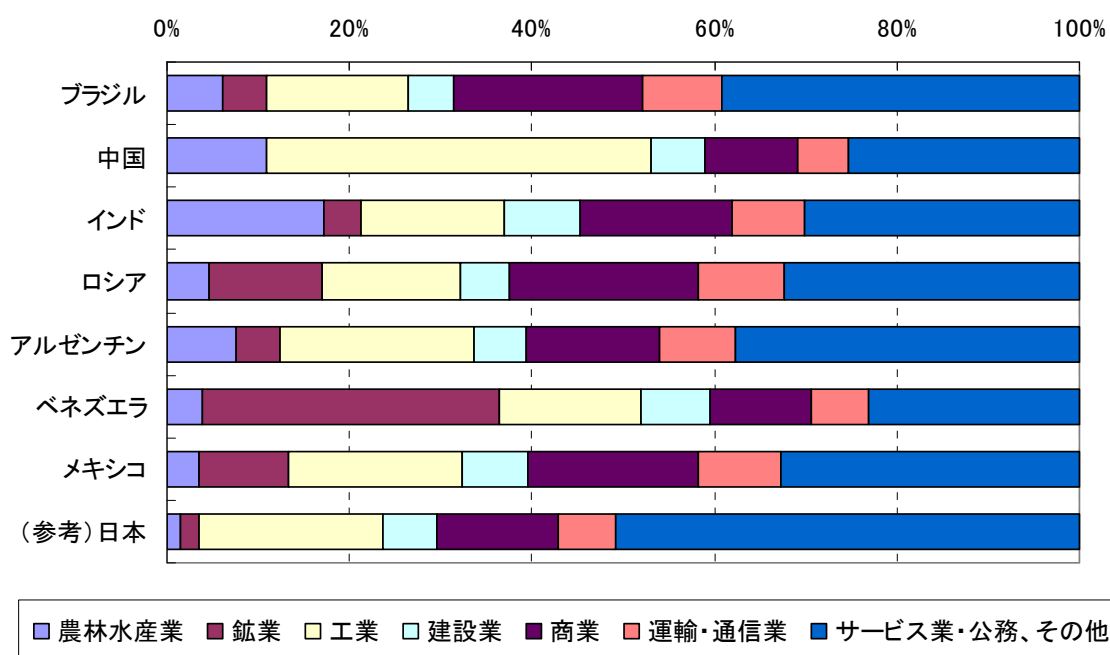


(出所：国連 “National Accounts Main Aggregate Database”)

次に、生産側の要素で分解したグラフを下図に示す。依然として農林水産業への依存が高いインド、鉱業への依存が高いロシアやベネズエラなどに比べると、ブラジルの付加価値はいわゆる第三次産業の分野から多く創出されていることが分かり、ブラジル経済が一定程度に成熟していることを示しているものと考えられる。



図表 0-19 BRICs 諸国およびラテンアメリカ諸国の GDP 需要側分解 (2009 年)

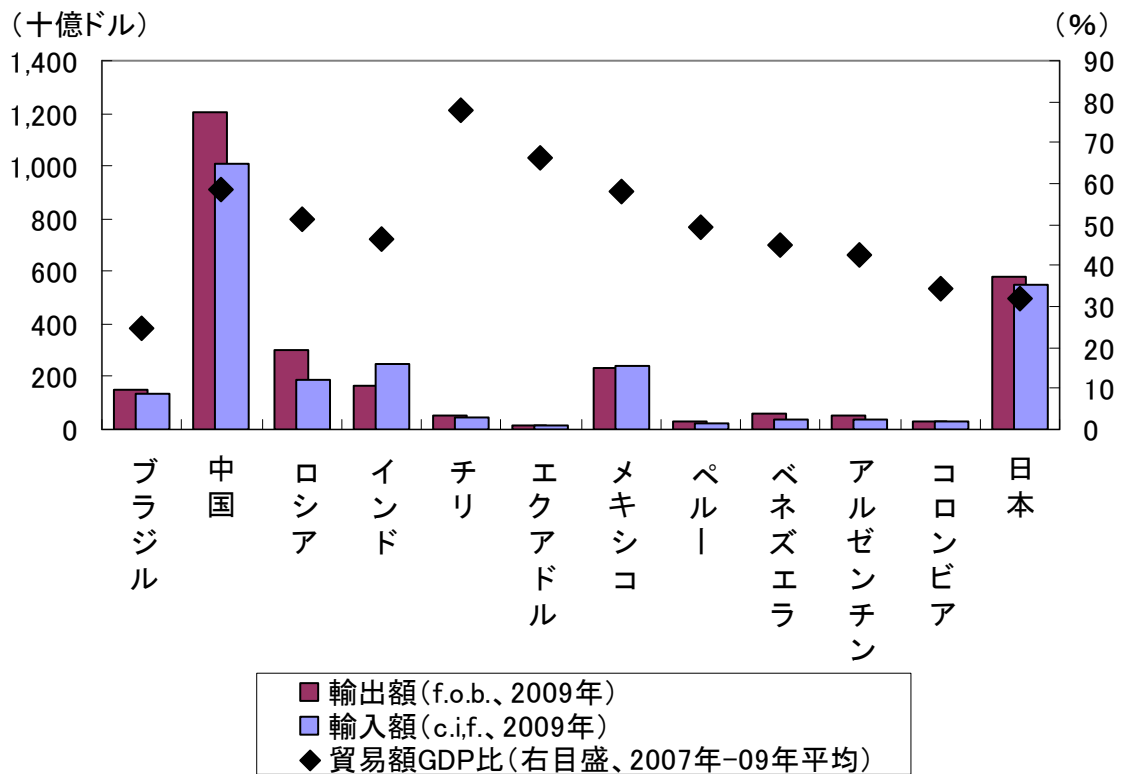


(注) 統計上の不完備により、中国の鉱業および工業は「工業」に集約して表示している。  
 (出所：国連 “National Accounts Main Aggregate Database”)

#### II-4. 輸出入の構造

ブラジルの 2009 年の輸出総額、輸入総額はそれぞれ 1,530 億ドル、1,337 億ドルであり、貿易総額の対 GDP 比 (2007-09 年平均) は約 24.8% である。金額ベースで見るとブラジルの貿易の規模は南米地域において高い割合を占めるものの、GDP との対比で見ると低い水準であり、貿易への依存が低い経済構造が読み取れる。

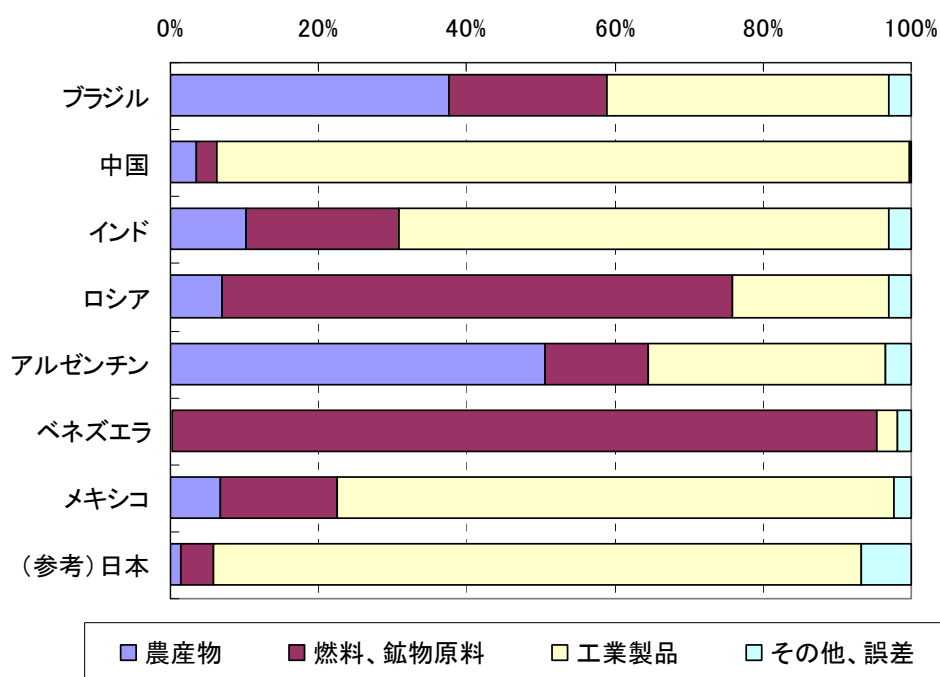
図表 0-20 各国の輸出額・輸入額



(出所 : WTO “Statistics Database”)

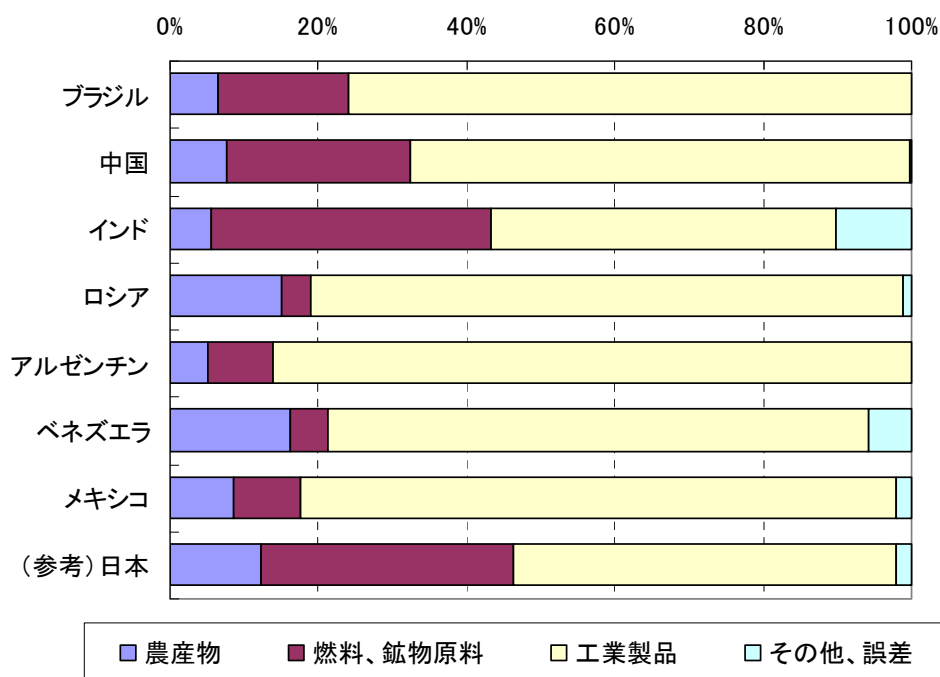
続いて、輸出入の構造を通じてブラジル経済の特質を捉える。まずは貿易財種類別の構造をみると、ブラジルは農産物や鉱産物を輸出し、主に工業製品類を輸入する構造にあることがわかる。ブラジルが主要な農作物および鉱産資源の世界有数の生産国であることを反映していると考えられる。ただしアルゼンチンほど農作物への輸出の依存が高い訳ではなく、また鉱産資源についてもロシアやベネズエラほど輸出における依存度が高くはない。

図表 0-21 BRICs 諸国およびラテンアメリカ主要国の輸出財構成（2009年）



(出所：WTO “Statistics Database”)

図表 0-22 BRICs 諸国及びラテンアメリカ主要国の輸入財構成（2009年）

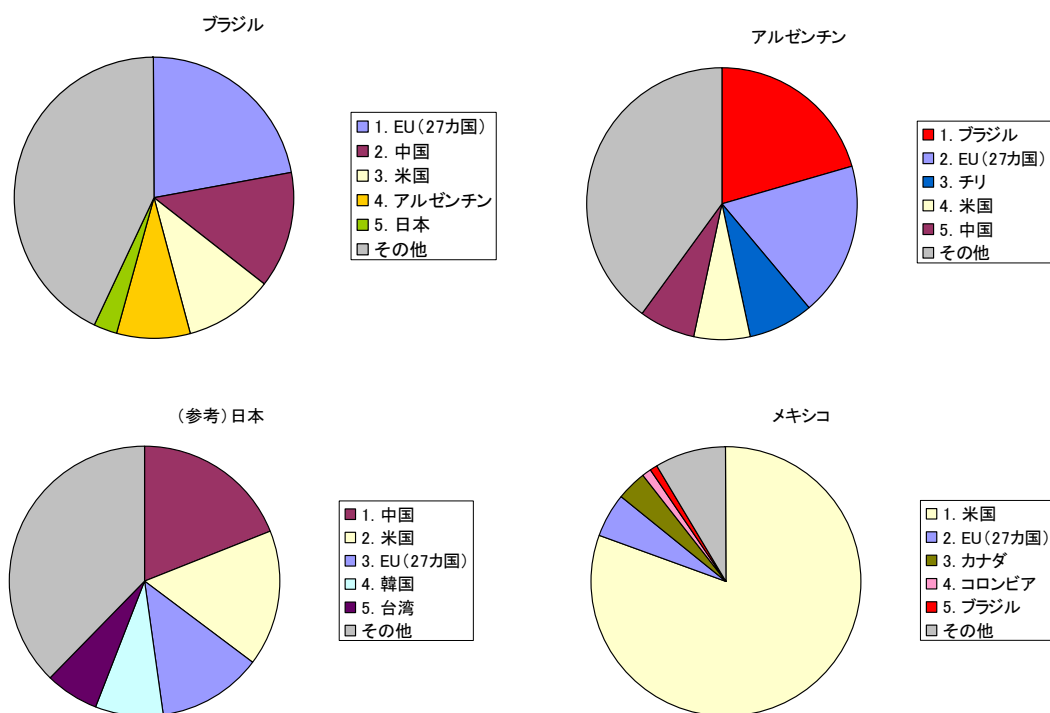


(出所：WTO “Statistics Database”)

また、輸出入の相手国をみると、ブラジルの貿易における特定国への依存度が低い構造になっていることがわかる。特にメキシコとの対比においてその性質は顕著である。また、近隣国との関係では、アルゼンチンにとってブラジルは最重要の貿易相手国である一方、ブラジルから見るとアルゼンチンは最重要の相手国ではない、という構造にある。

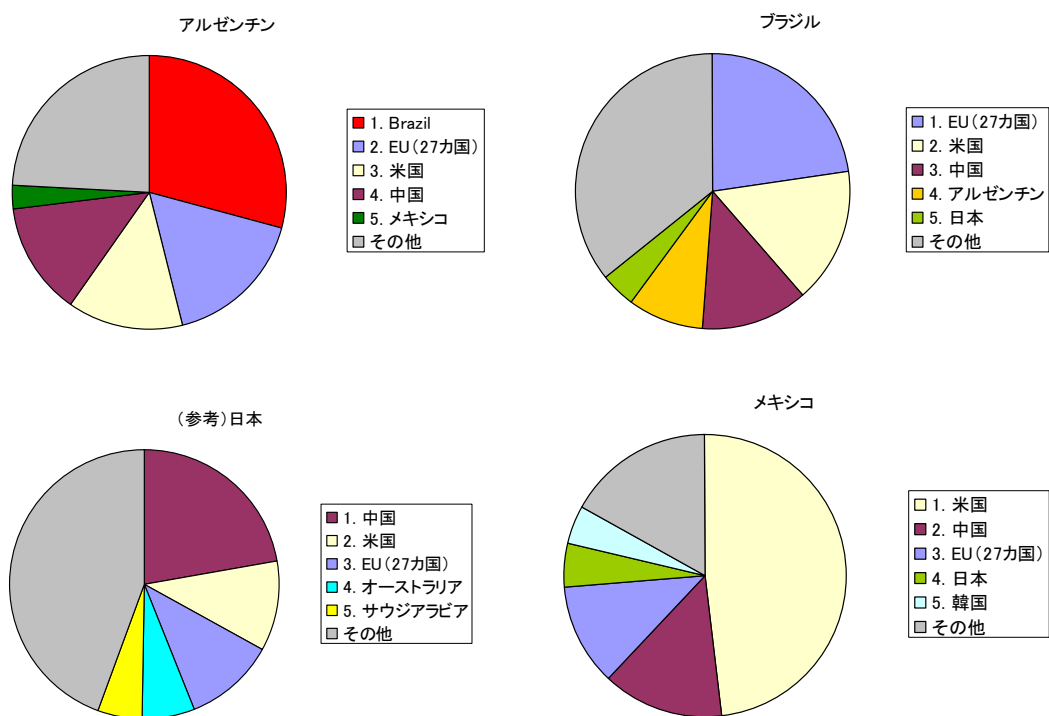
なお、各国との通商関係については章を改めて記述する。

図表 0-23 各国の輸出相手国 (2009年)



(出所 : WTO “Statistics Database”)

図表 0-24 各国の輸入相手国 (2009年)



(出所 : WTO “Statistics Database”)